

摂津市議会

駅前等再開発特別委員会記録

平成26年10月23日

摂津市議会

目 次

駅前等再開発特別委員会

10月23日

会議日時、場所、出席委員、説明のため出席した者、出席した議会事務局 職員、審査案件	1
開会の宣告	2
市長挨拶	
委員会記録署名委員の指名	2
認定第1号所管分の審査	2
補足説明（都市整備部長）	
質疑（市来賢太郎委員、弘豊委員、嶋野浩一朗委員、藤浦雅彦委員、大澤千恵子委員）	
採決	25
閉会の宣告	25

駅前等再開発特別委員会記録

1. 会議日時

平成26年10月23日(木) 午前10時 開会
午前11時43分 閉会

1. 場所

第二委員会室

1. 出席委員

委員長	木村勝彦	副委員長	大澤千恵子	委員	藤浦雅彦
委員	三好義治	委員	市来賢太郎	委員	弘 豊
委員	嶋野浩一朗				

1. 欠席委員

なし

1. 説明のため出席した者

市長	森山一正	副市長	小野吉孝
市長公室長	乾 富治	同室次長	山口 猛
政策推進課長	谷内田 修		
保健福祉部理事	島田 治	保健福祉課長	前野さゆみ
都市整備部長	吉田和生	同部次長	土井正治
都市計画課長	江草敏浩	同課参事	嘉戸善胤
同課長代理	藤井芳明	同課参事	秋庭伸正

1. 出席した議会事務局職員

事務局次長 川本勝也 同局主査 田村信也

1. 審査案件

認定第1号 平成25年度摂津市一般会計歳入歳出決算認定の件所管分

(午前10時 開会)

○木村勝彦委員長 ただいまから、駅前開発等特別委員会を開会します。

理事者から挨拶を受けます。

森山市長。

○森山市長 おはようございます。

まず、最初に木村委員、大澤委員には、当委員会の正副委員長、大変ご苦労さまでございます。

連日、常任委員会等々でお疲れのところ、本日は、特別委員会を開催いただきまして大変ありがとうございます。

本委員会では、平成25年度の歳入歳出決算のご審査をいただきます。どうぞ慎重審査の上、ご認定賜りますようよろしくお願いいたします。

○木村勝彦委員長 挨拶が終わりました。

本日の委員会記録署名委員は、藤浦委員を指名いたします。

暫時休憩いたします。

(午前10時1分 休憩)

(午前10時2分 再開)

○木村勝彦委員長 再開します。認定第1号所管分の審査を行います。

補足説明を求めます。

吉田都市整備部長。

○吉田都市整備部長 おはようございます。

認定第1号、平成25年度摂津市一般会計歳入歳出決算のうち、駅前等再開発特別委員会にかかわる部分につきまして、目を追って、その主なものについて補足説明をさせていただきます。

まず、歳入につきまして、ご説明申し上げます。

摂津市一般会計歳入歳出決算書の38ページをお開き願います。

款14国庫支出金、項2国庫補助金、目4土木費国庫補助金、節3都市計画費補助金では、社会資本整備総合交付金で、

千里丘西地区市街地再開発準備組合が、千里丘西地区再開発の事業化に向けて行う街区整備計画案の策定や、関係権利者の合意形成活動に取り組みますなど、まちづくりの初動期活動に対する国庫補助金でございます。

次に、歳出につきまして、ご説明を申し上げます。

摂津市一般会計歳入歳出決算書の160ページをお開き願います。

款7土木費、項4都市計画費、目2街路事業費では、執行率77.5%でございます。

詳細につきましては、決算概要の122ページから124ページにかけて、また、事務報告書201ページでは、吹田操車場跡地まちづくり事業、202ページでは、阪急京都線連続立体交差事業、203ページでは、阪急正雀駅前地区整備支援事業に係る内容を記載しておりますので、合わせてご参照をお願いします。

節8報償金は、阪急正雀駅前地区整備支援事業に係る報償金でございます。

節9旅費は、吹田操車場跡地まちづくり事業及び阪急京都線連続立体交差事業に係る普通旅費でございます。

節11需用費は、阪急正雀駅前地区整備支援事業及び阪急京都線連続立体交差事業に係る消耗品費と、吹田操車場跡地まちづくり事業及び阪急京都線連続立体交差事業に係る印刷製本費、及び吹田操車場跡地まちづくり事業に係る修繕料でございます。

節12役務費は、吹田操車場跡地まちづくり事業に係るJR千里丘駅西口における歩道整備に伴います手数料でございます。

節13委託料は、その内訳といたしまして、吹田操車場跡地まちづくり事業に係るJR千里丘駅西口における歩道整備

に伴う物件補償算定委託料、市道千里丘78号線外2路線の道路詳細設計に伴う道路測量設計委託料及び阪急京都線連続立体交差事業に係る関連街路であります坪井味舌線等の概略設計業務委託料などの事業調査委託料でございます。

次に、歳入歳出決算書160ページから162ページかけまして、節19負担金、補助及び交付金は、阪急京都線連続立体交差事業に係る大阪府連続立体交差事業協議会負担金と、吹田操車場跡地まちづくり事業におけるURの施工による吹田操車場跡地土地区画整理事業における平成25年度の社会資本整備総合交付金に伴う本市負担金と、防災公園街区整備事業として、URに施工委託しております千里丘公園整備に伴う市負担金、阪急京都線連続立体事業に係る大阪府の調査に伴う市負担金でございます。

繰越明許費につきましては、吹田操車場跡地まちづくり事業のうち、土地区画整理事業に係る市負担金の繰越明許であり、その内容といたしましては、決算概要30ページに記載しております繰越明許費繰越計算書の上から3段目と同じく決算概要122ページを合わせてご参照願います。

その理由といたしましては、施工者URの工事において、当初、想定しておりませんでした鉄道の構造物が埋設されていることが確認され、関係機関協議及び撤去に時間を要しましたことから、本年第1回定例会におきまして、平成26年度への明許繰越について、可決いただいたところでございます。

続きまして、歳入歳出決算書162ページ、目5再開発事業費では、執行率98.9%でございます。

詳細につきましては、決算概要126ページに記載いたしておりますので、ご

参照のほどよろしくお願いを申し上げます。

節9旅費は、千里丘西地区市街地再開発支援事業に係る普通旅費でございます。

節11需用費は、千里丘西地区市街地再開発支援事業に係る消耗品費及び印刷製本費でございます。

節19負担金、補助及び交付金は、千里丘西地区再開発の事業化に向けて、準備組合が行うまちづくり初動期活動に対し、摂津市再開発推進団体等補助金要綱に基づき、国からの補助金と合わせて、市が準備組合に対し支援する補助金でございます。

以上、認定第1号、平成25年度摂津市一般会計歳入歳出決算認定の件のうち、駅前等再開発特別委員会にかかわります部分につきまして補足説明とさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

○木村勝彦委員長 説明が終わり、質疑に入ります。

市来委員。

○市来賢太郎委員 おはようございます。

それでは、質問をさせていただきますけれども、歳出に関しまして、決算概要をもとに質問をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

122ページの阪急正雀駅前地区整備支援事業に関してですけれども、金額は少ないのですけれども、平成25年度具体的に何ができたのかお伺ひいたします。

その次ですけれども、吹田操車場跡地まちづくり事業ですけれども、これも平成25年に主にしたこと、できたことを教えていただきたいと思います。

それと、残額の6,152万4,824円のうち、翌年繰越の3,552万円というのを、詳しく教えていただきたいと思います。

それと、続きまして、124ページの

阪急京都線連続立体交差事業ですけれども、これについても平成25年で主に行ったことについて教えていただきたいと思いをします。

○木村勝彦委員長 嘉戸参事。

○嘉戸都市計画課参事 それでは、市来委員の連続立体交差事業にかかわりますご質問に対してご答弁申し上げます。

平成25年度、どういった業務を行ったかという点でございますけれども、連立事業につきましては、平成25年度から本格的な調査業務に入ったところでございます。

平成28年の都市計画決定を目指し調査に入った段階で、平成25年度の業務といたしましては、地元説明会を大阪府主催で開催いたしまして、今後、平成25年度から測量や地盤調査で現場に入っていくことのご説明ですとか、連立事業の概要と状況についてご説明をさせていただきました。

それを受けまして、連立事業といたしましては、測量業務、土質調査業務に着手しました。

摂津市といたしましては、市民の意見をお聞きする場を設けていこうということで、意見交換会という形で、これは、自治会の役員を中心としたメンバーにお集まりいただきまして、地域として抱えている課題と連立事業というテーマで意見を交換していただきました。地域をどう思っているのか、地域の課題と連立事業、連立事業で何ができていくのだろうかといったような観点で意見交換をさせていただきました。

連立事業で、平成25年度の業務としては、以上でございます。

○木村勝彦委員長 秋庭参事。

○秋庭都市計画課参事 それでは、市来委員の吹田操車場跡地まちづくりの質問

について、お答えさせていただきます。

まず、平成25年度の実施事業につきましては、摂津市域にあります部分につきましては、千里丘中央線の整備に伴う山田川の派川の横断橋梁の整備を行っております。

この詳しい内容ですが、山田川派川の橋梁下部工事、その前後の電線共同溝の整備、排水管の整備工事、これを主に実施してございます。

そのうち、繰越をしました3,552万円の内容でございますけれども、この山田川派川の横断橋梁部におきまして、当初、想定していなかった鉄道構造物が埋設されていることが確認されました。

これは、筒状のコンクリート構造物ということで、井戸のような形にもとれまして、撤去する必要がございましたので、この撤去は、基本的には、鉄道支援機構の保有している用地から購入した用地でございますので、これは隠れた瑕疵ということで、鉄道支援機構で撤去するという協議を約2か月ほど行いまして、その協議後、撤去作業、これに約1か月ほど時間を要したということで、計、約3か月の工事の遅れが生じました。

そのことから、当該年度に実施ができないということになりまして、繰り越していただいた状況でございます。

○木村勝彦委員長 藤井課長代理。

○藤井都市計画課長代理 市来委員の阪急正雀駅前地区整備支援事業につきましては、平成25年度の活動内容はどのようなものかということの質問にお答えさせていただきます。

阪急正雀駅前地区まちづくりにつきましては、平成18年から正雀の駅前地区まちづくりワークショップに取り組んでおります。

平成25年度も10回まちづくりワー

クシヨツプを開催し、具体的に、何かが出来たかというところはないのですけれども、地域の課題等お話がありまして、特に、安全、安心という観点から福祉の問題だとかを話し合っております。

また、ここにあげております報償金につきましては、まちづくりワークショップ開催当初からかかわっております講師をお呼びしてアドバイスを受けたものでございます。

○木村勝彦委員長 嘉戸参事。

○嘉戸都市計画課参事 先ほどの連立事業にかかわります平成25年度の業務といたしまして、もう一つ、設計業務といたしまして、今年度から側道関係の概略設計にかかっていくのですけれども、その前段といたしまして、関連街路であります坪井味舌線、鉄道と交差します都市計画道路ですけれども、こちらの検討を開始しております。

ちょうど交差する道路でございますので、その検討が側道の検討のきっかけとなりますので、そういった作業を平成25年度開始させていただきました。

○木村勝彦委員長 市来委員。

○市来賢太郎委員 ご答弁いただきましてありがとうございます。

阪急正雀駅前地区整備支援事業なのですけれども、10回のワークショップを行って、それで特に何も結果はなかったけれども、地域のことについて、お話をしはったということで、その中で、福祉の問題などというふうにおっしゃったのが、少し気になって、何かあり方自体をもう一度ご検討していただきたいなと思います。

続きまして、吹田操車場跡地まちづくり事業ですけれども、私も近くに住んでいますので、線路沿いとかを通ると、大分、進んできているのかなというふう

に思います。公園などもできてきてたりして、近くを通っていると、ワクワクして、早く全貌が見たいなというふうな気持ちになるのですけれども、その中でも予定していなかった、想定していなかった構造物が出て来たりなんかして、3か月遅れているということなのですけれども、近くに住んでいる市民としては、やっぱり早く見たいということで、これからも想定しなかったことがあって遅れていくようなことがないように、しっかりと進捗していただきたいと思います。

阪急正雀駅前地区整備支援事業と、この吹田操車場跡地まちづくり事業に関しては、要望とさせていただきます。

続きまして、阪急京都線連続立体交差事業ですけれども、地元説明会を行っていただいたということで、それと、自治会の役員を初めとする意見交換会をやっていたみたいなのですけれども、その中で出た意見などありましたら教えていただきたいと思います。お願いいたします。

○木村勝彦委員長 嘉戸参事。

○嘉戸都市計画課参事 連立事業の説明会、並びに、意見交換会でいただいたご意見につきまして申し上げます。

説明会は、合計3回、およそ400名近い方にお集まりいただきました。

これは、線路沿線の方、並びに、広報でもお知らせした上で開催させていただきました。

意見交換会につきましては、自治会単位で役員に声をかけていただき、お集まりいただきました。

いただきました意見といたしましては、連立事業そのものについては、ぜひ、進めるべきだと、地域の分断、踏切の問題、そういったところを考えると、必要な事業だというご意見をいただきました。

また、その一方で、事業による影響、例えば、道路の車の流れが変わることによる交通問題ですとか、事業の工事中、あるいは、完成した後の騒音といった環境面での問題、交通安全の問題、そういった懸念されることもあるので、そのあたりの対応をきっちりしてほしいというようなご意見が多数ございました。

○木村勝彦委員長 市来委員。

○市来賢太郎委員 ご答弁いただきましてありがとうございます。

説明会に関しては、3回で400名ぐらい来たということで、多くの方に説明できたのではないかなと思います。

それと、意見交換会ですけれども、阪急京都線連続立体交差事業自体には、皆さん賛成いただいているということで、よかったのではないかなと思うのですが、ただ、工事中だとか、車の流れが変わってしまうだとか、心配ですとか、環境に対する問題とかというのは、やっぱり、進めていく中で、前にも心配したのにと言ったのにとというふうに、また言われるようなことがないように細かく説明していきながら進めていっていただきたいと思います。

また、この事業に関しては、すごく時間のかかる事業だとお聞きしておりますけれども、現実問題、今、線路があることで、夕方や朝、すごく混んでしまっているのが現状だと思うのです。

特に、私、心痛めるのが、緊急車両です。早く連続立体交差事業が進んで緊急車両がすっと通っていきえるようになったらいいなと思っていますので、時間のかかる事業だというのは、重々わかっているのですが、細かな説明をして、さらに事業が着実に一步一步進捗していくようお願いいたします。要望といたします。

○木村勝彦委員長 ほかにありませんか。弘委員。

○弘豊委員 私のほうからは、吹田操車場跡地まちづくり事業と阪急京都線連続立体交差事業にかかわってお聞きしていきたいというふうに思います。

最初に、決算概要の122ページ、吹田操車場跡地まちづくり事業なんですけれども、そのうち、道路測量設計委託料があります。

事務報告書の記載も見ましたら、先ほど部長から説明ありましたように、千里丘78号線の道路詳細設計業務委託ということでしたが、記載にあるのは、78号線外2路線と書かれております。

この2路線の中身と、それから、78号線のうちどの区間になっているのかということをお聞きしておきたいというふうに思います。

それと、千里丘公園整備負担金ということで、1億8,203万5,076円、この事業の中では一番大きい支出なわけなのですが、今の公園の整備状況、春に地元の方の説明会などもやられたときに、ほぼできているような形の写真も含めた報告ありましたが、今後、供用開始の時期を含めてお聞きしておきたいというふうに思います。

あと、もう一点、これは、先般の委員会の際に、吹田貨物ターミナル調整会議の報告をしていただきました。

貨物駅が開業して、その後の環境影響評価とか、いろいろ貨物で取り組んでいることについて、地元の方にも説明していくというようなことで取り組まれてきたというふうに思うのです。

昨年1年間のその動きについてお聞きしておきたいというふうに思います。

阪急京都線連続立体交差事業のほうですが、この部分につきましては、先ほど

ご説明もありましたが、事務報告書で、それぞれ記載もされておりました。坪井味舌線外1路線道路概略設計業務委託で320万4,600円。沿線地域ヒアリング支援業務委託で49万3,500円というようなことなのですけれども、予算審査の際に600万円の計上というようにすることで、この中身は何ですかというようなことで私が質問しましたが、その際の答えの中に、地元意見の聞き取りなんかを平成25年度も進めていくのだということ、そのことで報告されていたのと、実際の支出にしてみたら、半分以上がこの坪井味舌線外1路線の道路概略設計のほうにあてられているということです、ここらあたり、当初の考えと今回の支出の出方が違っているようにも感じたのですが、その点についてお聞かせいただきたいというふうに思います。

もう一点、ヒアリング支援業務ですけれども、コンサルタント会社に委託してやられている部分なのですが、そのやられている中身は、自治会長や地域の方たちとの懇談というようなことなのですけれども、そんな中で、そのコンサルタントの位置づけ、どういうふうな役割をしてもらっているのか、また、これが、どうしても必要なのかどうかというようなことも含めてお聞きしておきたいというふうに思います。

○木村勝彦委員長 秋庭参事。

○秋庭都市計画課参事 それでは、弘委員の吹田操車場跡地まちづくり事業に関する質問についてお答えします。

まず、道路測量設計業務委託で千里丘78号線外2路線の設計内容についてということでございますけれども、これにつきましては、まず、市道23号線歩道詳細設計と、府道正雀停車場線歩道設計でございます。

内容は、現在、整備しようとしております千里丘中央線のちょうど千里丘駅側に当たります千里丘ガードの手前の側道部分までが区画整理事業の千里丘中央線の整備区域内でございます。

その後、千里丘の駅のほうに向かう千里丘ガードの上のUターン路の道路につきましては、きちんと歩車道分離しているような状態ではございません。

特に、駅までの間のドーナツ店のあたりは、完全に歩道がないような状態でございます。

これは、千里丘中央線整備に伴い、当然、千里丘駅のほうまで、歩車道の導線がつながってきますので、都市計画設計としましては、歩道をつなげていくということで、その部分の詳細設計、市道23号線という名称なのですけれども、その歩道の設計を行っております。

それと、もう一つ、正雀停車場線というのは、そのガードの横にある西側側道の一部府道について、緑地で残地として残っているところがあるのですけれども、千里丘駅へ民間のバスが往来していると、先ほど言いました市道23号線の歩道整備に伴いまして、ゴーストストップする場所がなくなるということで、先ほどいった側道の一部を利用したバスベイ空間を何とかそこにもってきたいなということで、その設計も合わせて今回行っております。

二つ目のご質問で、千里丘78号線の整備区間ということで、これは千里丘中央線からちょうど正雀下水処理場跡地、クリーンセンター沿いに現道の千里丘78号線が、6メートルほどの道でございます。大阪高槻京都線へのアクセス道路の一番狭い90メートルの区間について歩道の整備ということで、合計幅員14メートルの道路としております。

この部分については、道路詳細設計の

業務にも入っております部分で、この拡張設計と電線共同溝の設計ということで考えておる次第です。

続きまして、公園の整備状況ですけれども、平成24年度から公園整備をやっておりまして、千里丘公園ですけれども、今年度の工事としましては、建屋は平成24年度にできておりますけれども、あと、大型遊具等が残っております。それとあと、緑地整備、芝生等の整備が残っております、これを今年度で工事をやっていく次第です。

平成27年度につきましては、芝の養生等もございまして、供用開始につきましては、千里丘中央線の供用開始と合わせて平成28年の春、4月ごろに供用開始をやっていきたいと考えております。

四つ目の吹田貨物ターミナル調整会議の状況なのですけれども、これは、今年度6月に去年1年間のそういった環境調査の結果報告の会議がございまして、中身に関しては、大気汚染関係ですけれども、特に、吹田市域の部分については、そういった調査をすると、摂津市域については、基本的には、調査対象外なんですけれども、参考に大気汚染等の調査もしていただいたという状況です。

その1年間の測定結果につきましては、年間の浮遊粒子状物質とか、二酸化窒素、騒音、振動、こういったものも基準値を下回っているという報告を聞いております。

基本的には、この大気汚染等の調査報告については、貨物ターミナルの開業後1年間ということでやっておりまして、この1年間の調査報告ということで聞いており、今後は年1回ということで、今年度は終わります、来年度以降、依頼があれば進めていくということとなっております。

○木村勝彦委員長 嘉戸参事。

○嘉戸都市計画課参事 それでは、弘委員の連立事業にかかりわります質問に対してお答え申し上げます。

ヒアリング支援業務につきましてですけれども、この業務は、意見交換会を開催するという事で、市民の皆様が集まっていたくもので、形式といたしましては、テーブルを囲む形で、市民の皆さんが入って、市の職員も入って、コンサルタントのメンバーも入るといってございまして。

コンサルタントの役割といたしましては、テーブルを囲んだときの意見交換がスムーズにいくようにするためのファシリテーター役でございます。意見交換になれていらっしゃる市民の方々が大半でございますので、意見がうまく出づらかったりですとか、逆に意見が一つの方向に流れきってしまうというようなことも考えられますので、コンサルタントが第三者的な立場で、その場の議論をうまく誘導していったって活発な意見交換をしていただくためということで、コンサルタントに入っていました。

当初、私どもが昨年度、予算審査のときにご説明させていただいた時点では、この意見交換会の内容を、まず、会の初めに学識の経験者の方からのご講演をいただいたりですとか、ファシリテーター役のコンサルタントを各テーブルに複数つけるという形で、いろいろ想定して進めておりました。

その後、私どもが地元にも入りながら貴重なご意見をいただく中で、連立事業そのものについての説明も必要だというような感触もございました。

コンサルタントにファシリテーター役に入らせていただくことも必要ですけれども、そればかりではなくて、市の職員も

入る形で、疑問が生じた場合に答える役目として市の職員も配置していこうという考え方に移ってまいりました。

そうしましたことから、思っておりましたよりも、見込んでいた金額よりはかなり低くおさえられたということでございます。金額的にも、当初予算要望の段階では600万円ということで考えさせていただいていたのですけれども、そういった必要なところに絞っていきましてところ50万円弱という金額でおさまったという形でございます。

当初、そのような考えのもとで予算化させていただいておりましたけれども、その一方で側道の設計業務も平成26年度からやっていくということで当初から予定しておりました。その前段といたしまして、交差します坪井味舌線、千里丘三島線、それらの路線の状況も並行して調査しておりました。どういった既存資料があって、次の年の側道の検討を始める当たって何が必要なのかというところも合わせて並行して進めておりました。

そういった中、坪井味舌線につきましては、都市計画決定はされておりますもののそれ以後、測量の調査はおろか、事業化されておられませんので、何もスタートしていないという状況が判明してまいりましたので、きたるべき側道の検討をするに当たりましては、現場の準備や設計業務も必要だということで、そのような準備もさせていただきました。

結果的には、委員がご指摘のように金額的なバランスといたしましては、逆転してしまったような感じにはなってございます。

本来ですと、委員会の場などで、こういった状況の説明をさせていただくべきだったところかとは思いますが、翌年度以降のさまざまな業務の進行とい

うところを考えた結果、こういった設計業務も発生しておるといような状況でございます。

○木村勝彦委員長 弘委員。

○弘豊委員 そうしましたら、重ねてお聞きしていきたいというふうに思いますが、吹田操車場跡地まちづくり事業にかかわる道路測量設計の分については、今、ご説明いただいた分でわかりました。

気になっていたのが、千里丘78号線のところの整備については、本市がもちろんやるけれども、クリーンセンター北部の道路は、吹田市のほうで工事もやっていくというようなことも以前ご説明いただいていたけれども、設計とかのところは摂津市がやるのかどうなのかとか、そこらあたりの仕切りが、今回、ほかの路線との絡みで気になりましたので、確認のために聞いておきました。先ほどの答弁で結構です。

次に、千里丘公園の関係なのですが、やはり、先ほど市来委員もおっしゃられていたように、だんだんとでき上がってきている状況も見えてきてというふうなそんな中で、例えば、公園だけでも先に使えるようにならないのかなというふうな、そうした声なんかも若干耳にしたりするのです。

竹之鼻ガードの工事が始まって、斜路付階段で公園のほうに抜ける道みたいなこともできるのだけれども、当面はできてもあそこは閉じた状態になるのかなと、先ほどの答弁にしたらそういうふうなことなわけです。

ご説明の中身はわかるのですが、防災機能を備えた公園というようなことでこの千里丘公園を位置づけています。

大きな災害が仮にあったときに、そうした防災機能が活用できないのかなというふうなことも若干気になりましたので

質問させていただいたのですが、そこらあたりのところ、2回目でお答えいただけないでしょうか。

あともう1点の吹田貨物ターミナルの調整会議の件なのですけれども、吹田貨物ターミナルのホームページをのぞいていましたら、調整会議の議事録なんかも公開されていました。

環境調査についてというようなことで、そのときそのときに、若干、予想値を上回るような数値が出ているということも吹田市のほうではあったこともあるけれども、基準値には達していないというような、そういった説明なんかもやられているようでした。

そんな中で、摂津市からの住民代表の方の参加というようなことで、以前の委員会では説明されたかと思うのですけれども、この数回、摂津市の住民代表の方の参加がないようなので、そこらあたりのところも気になって、位置づけとしてどうなっているのかなというようなことをお聞かせいただきたいというふうに思います。

会議に参加している中で、議論が吹田市のほうに大分集中して、摂津市のほうは参加は要らないみたいなそんな判断になっているのかなというようなことも気になったのでお聞かせいただきたいのと、おっしゃられた1年間の動きの中で、6月に環境影響評価の報告がされたというふうなことの中で、大きな環境被害というようなことにはなっていないというふうなことをおっしゃられましたが、貨物駅の建設の際に大きな議論になっているわけですから、その監視というのは、引き続き強めていっていただきたいと思っております。

また、貨物取扱量の状況なんかも、その会議の中では報告がされてというふう

なことなのですが、これを見ましたら当初の協定なんかで結ばれているように、梅田貨物からの貨物の移転が百済と吹田とで半々にとりうふうな、そこらあたりも守られているようであります。

ただ、以前の委員会で私が指摘した大阪貨物ターミナル、これは新幹線烏飼車両基地の北側ですが、ここの貨物取扱量がふえているのではないかというふうなそうしたことについては、数字としては、やっぱりふえているなということが気になって、そこらあたりのところはどうかというのを、一点、聞いておきたいというふうに思います。

次に、阪急京都線連続立体交差事業のほうなのですが、先ほどの答弁で、実際やってみる中でこういう結果になったというふうなことでありますが、この坪井味舌線外1路線の道路概略設計ですけれども、この平成25年度にどうしてもやらないといけないようなことだったのかどうかということも少しひっかかっています。

というのは、この事業そのものが、今後、長いスパンで取り込まれていく、実際に工事着工になるのもいつかということが、今、決まっていない段階だと思います。

そんな中で、この坪井味舌線外1路線道路概略設計というようなことで、委託している先は、阪急設計コンサルタントというふうなことで記載されていますけれども、これが、今、やらないといけない仕事だったのかなというふうな点、その中身について、もう一度、詳しく聞いておきたいというふうに思います。

もう一点のヒアリング支援業務のところです。これも当初は見込んでいたそのファシリテーターを入れてやってみてというふうなことの中で、もっと職員が参

加してやるという、そういうやり方のほうに切り替えていっているというふうな話でしたが、コンサルタントが持っているノウハウというのは、やっていく中で、もちろんいろいろと便利と言えば便利なのかもしれないですけども、やっぱり、今の段階、自治会の役員さんとかがテーブルを囲んでやっているというふうなことの中では、これは、余り必要ないのではないのかなということも率直に思わざるを得ないなというふうなことです。

意見交換会というふうな形で、今後も進めていくというふうには思うのですが、こここのところのあり方というか、その辺について、再度、見直しを含めて聞かせていただきたいというふうに思います。

○木村勝彦委員長 決算項目から離れている部分があると思いますので、答弁は決算に関する部分のみで結構です。

秋庭参事。

○秋庭都市計画課参事 それでは、弘委員の2回目の質問で、千里丘公園の供用開始時期についてのご質問にお答えいたします。

現場は、千里丘中央線の整備等々やってございまして、集中してやっている場所もあれば、その周辺から工事をやっている場所も様々にございます。

工事ヤードといたしましては、現在、囲っている区域、部分について、そういった建設機械、工事車両ということで、道が整備されないまま中央にある公園を開放というのは、安全上大変危険な状態という判断になってございますので、これは、やはり使っていただく以上、まず安全が確保できた段階での供用かなというふうに考えてございます。

ですので、千里丘中央線の整備につきましては、引き続き、今年度及び来年度、

平成27年度末までやっていく予定でございまして、公園につきましても合わせた形の供用で、どこから入っていただいても安全にお使いいただけるような形で供用開始をしたいなというふうに考えてございます。

防災機能ということで、その部分の活動はどうかとの質問ですが、防災機能につきましては、貯水槽であるとか、備蓄倉庫というもので、現在、建屋等はできておりますけれども、細かい部分につきましては、これも引き続き今後やっていく工事内容でございまして、やはり完成後に機能をフルに活用できるということで、供用後というふうに考えてございますので、有事の際の判断というのは、また、個別にあるかとはございまして、現段階ではこういった判断になっています。

○木村勝彦委員長 土井次長。

○土井都市整備部次長 それでは、貨物ターミナルの調整会議につきまして、決算項目にはございませんけれども、吹田操車場跡地への貨物駅移転に伴う関連という形の中でご答弁させていただきたいと思っております。

この調整会議につきましては、貨物駅開業後、いろいろな諸問題が出てくるだろうという形で、その話し合いの場として設置が協定等で義務づけられて設置されたものでございます。

その中で、当初、行政、貨物、大阪府等で会議の開催等を考えておりましたけれども、市民団体、市民の参加ということもありまして、市民の方も参加できるという形になっております。

本市につきましても、当初、市民の方、自治会の役員の方、2名を臨時会員というふうな形で参加を要請して、参加していただきました経過もございまして、

ただ、議事録等もお読みになっていたかとも思いますけれども、状況の報告で、特に、大きな問題が出ていない、また、摂津市域では、貨物駅に直接隣接していないということもありまして、市民の委員さんのほうから、こういう会議であれば、特に、今は問題ないので、資料をいただだけでいいですよというような形がありまして、摂津市側からは、3回目から、住民代表の方の参加はないという状況になっております。

吹田市側からも参加されておりますけれども、特に、貨物駅の開業に伴う大きな問題は出されていないというような状況であります。

監視につきましては、貨物駅開業後、1年間アセス同様の監視をしていきなさいということが決まっておりますので、開業後の事後監視という形の中で実施されました。

通常、年4回されて一括して報告されるのが一般的なのですけれども、初めてということもありまして、四半期ごとの調査結果が出た段階で本会議を開催しまして、状況の報告をさせていただいているところです。

最終、6月の段階で1年間通して特に問題がないという形でありましたので、次年度からは、年1回開催するという形の中で話がまとまっております。

この中で、貨物の取扱量と車両の通行台数についての報告が、一番大きな今後の議題になるかと考えております。

大阪貨物ターミナルの貨物量という話ですけれども、基本的には、梅田貨物ターミナル駅の貨物を全て吹田貨物ターミナルに持ってこないということがこの発端で、百済と半々という形の中で、今回の貨物駅の移転が進行してまいりました。

おおむね本数を分けておりますので、

半々、吹田と百済に分散されているものと考えております。

ただ、その後の貨物量と申しますのは、時代の背景もありますし、貨物量が全体的にふえる、また、貨物の取り扱いがへってくるというのは、我々がコントロールできないところもあると考えております。

また、基本的には貨物での営業活動もございまして、我々としては、吹田貨物ターミナルに対して、年間100万トンという数値を超えないように、今後とも監視してまいりたいと考えております。

○木村勝彦委員長 嘉戸参事。

○嘉戸都市計画課参事 それでは、連立事業に関することにつきまして、ご答弁申し上げます。

まず、坪井味舌線外1路線の道路概略設計につきましてですけれども、内容といたしましては、現地の測量並びに道路の概略設計でございます。測量につきましては、平面的な調査と、高さを調べていくという調査の両方を行っております。

平成25年度に行う必要性につきましてですけれども、坪井味舌線が阪急電車と交差する都市計画道路であるということと、現道がなく、現地には形は見えていないということがございまして、平成25年度から大阪府のほうから、阪急電鉄に土質調査や測量と合わせまして、鉄道の設計業務も委託されておりますが、鉄道の設計をしていくに当たりましては、交差する道路の位置でありますとか、幅でありますとか、必要な高さでありますとか、そのあたりの情報がどうしても必要となってまいります。

その関係から、平成25年度から、作業に着手させていただいたという次第でございます。

あと、ヒアリング支援業務につきましてですけれども、コンサルタントの必要

性という点につきましては、円滑な意見交換を進めるためのファシリテーターとしての役割でございます。

職員が同じことを言う場合でも、コンサルタントが第三者的な立場からおっしゃっていただくと、市民の方も理解がしやすいといえますか、第三者の発言ということで受け取っていただいて、フラットな議論を進めていけるというメリットが多分でございます。

そういったコンサルタントのノウハウといえますか、さまざまなスキルは、平成25年度の意見交換会では、私ども職員も意見交換に加わっておりましたので、ある程度、ノウハウは吸収できたかなという感もございます。

今後の見通しにつきましてはですが、平成25年度はコンサルタントも入った形で進めさせていただきましたが、ノウハウもある程度いただけたということで、平成26年度につきましては、市の職員だけで進行役も行う形で意見交換会を進めておりました。

今後、そういった類いの意見交換については、市の職員でも何とかやっていけるのではという見通しは、ある程度たつたのではないかと思います。

意見交換の形ですとか役割、目的、今回は、意見交換並びに連立事業についてのどのような事業なのかという知識を深めていただくという目的もウエートとしては重くございましたので、市の職員で対応ということもございました。

この先、当初考えておりましたように、学識経験者の方の講演など、ある程度広い知識を市民の方にも紹介しながら意見交換という場になってまいりますと、市の職員だけでは難しいということも生じてくる可能性もあるとは思っておりますので、その時々に必要な人員配置、並び

に委託が必要ならば委託を検討するという形で、必要性に応じた検討をしてまいりたいと思っております。

○木村勝彦委員長 弘委員。

○弘豊委員 ありがとうございます。

吹田操車場跡地まちづくりにかかわっての千里丘公園の供用開始について、お答えのとおりだなというふうには思うのですが、近年のいろんな災害が頻発しているそういった中で、本市にかかわってといったら、南海トラフの大型地震なんか来たときにどうなんだろうというふうな、そういう備えというのは、早目に取り組んでおくことが必要というふうなことも感じておりますので、今すぐ公園が使えるようになっていないということはもちろん承知しておりますけれども、万が一のときのそういった活用ができればというふうな、そういうようなこともありますので、この点については、要望としておきたいと思います。

貨物ターミナルのこともそうなのですが、今、大きな問題になっているというようなことではもちろんありませんけれども、ずっとこの間、吹田操車場跡地の問題で議論してきた公害への危機感というふうなそういったこと言いましたら、確かに吹田市のほうでは影響はそんなにというふうなこともあります、貨物の取扱量でいったら、梅田がなくなったことで、大阪貨物ターミナルが百済と並んでこの大阪では最大の貨物量ということになってきています。

そういった中では、そういう認識もきちんとしていくことは必要かなと思って取り上げさせてもらいました。この点についても答弁のほうは先ほどの分で結構です。

次に、阪急京都線連続立体交差事業にかかわってなんです、坪井味舌線外1

路線の道路概略設計の点です。大阪府や阪急との関係もあって、平成25年度に取り組んだというふうなことで了解しましたが、この事業全体としては、概算で375億円ほどというふうなことも言われている大きなものです。

また、摂津市の負担としては、それ以外にも関連工事がというふうなこともこの間ずっと言われていることだというふうに思うのですが、この関連工事なんかでどれだけ出ていくのだろうかというふうなことは、どうしても気になってくる点です。

そういった点では、交差する道路、この部分で、今回、320万円ということを出ておりますけれども、今後、どれくらい出ていくのかということが、今の時点では、まだ見通しも立たないだろうと思っておりますけれども、事業費が膨らんでいくというふうなことにならないようにぜひともこの点については、指摘もしていきたいというふうに思っておりますし、ヒアリング支援業務のところについても先ほどの答弁で結構なのですけれども、あり方について、費用の出方について、厳しくまた見ていってもらえたらというふうに、全て要望にしておきたいというふうに思います。

○木村勝彦委員長 ほかにありませんか。

嶋野委員。

○嶋野浩一朗委員 それでは、何点かお聞かせをいただきたいと思っております。

まず、阪急正雀駅前地区整備支援事業でございますけれども、市来委員も質問されておりまして、ご答弁いただきまして、内容につきましては、理解をしたところでございますけれども、その中で、安心や安全ということ、一つ大きなテーマにしていきながら、ワークショップを10回行われた。

そこで福祉のことについても、いろいろ意見が出てきたという話だったのですけれども、確かに安心という面でいうと、福祉の問題になるのかなと思っておりますけれども、一方で安全と考えると、やはり、正雀の駅前の通行形態を考えていくということが、私は不可欠であろうというふうに思っております。

そこで、この平成25年度につきまして、そこら辺のことについて、平成18年度からされておられますので、以前から出てきた問題であろうと思っておりますけれども、一点、その点につきましてお聞かせをいただきたいと思っております。

それから、吹田操車場跡地の問題でございますけれども、これは要望とさせていただきますと思っておりますけれども、この吹田操車場跡地のまちづくりは、今回も若干鉄道関係の埋設物があったということがあります。

以前にも文化財が出てきて少しおくれたというふうなこともありましたし、また、当初は、都市型の居住ゾーンということで進んでおりました。

摂津市の特徴を考えた場合に、特に、税収の構造を考えた場合に、私は都市型居住ゾーンといったものは、非常に的を射た方向性だろうなというふうに思っております。

そういった状況の中で、これは、吹田市域になりますけれども、国立循環器病研究センターがやってくるということで、それに関連をした一部使い方もされていくということになりまして、若干の変更があったわけでございますけれども、この国立循環器病研究センターの問題は非常に大きかったなと、それは、単純に考えると下水処理場の問題だったりとか、クリーンセンターの問題もあったわけで

ございますけれども、そういったことを考えたときには、非常にこの国立循環器病研究センターが吹田操車場跡地にやってくるといったことは、大きなメリットが本市にもあるのだろうなと思っておりますけれども、やはり、それであるならば、さらに摂津市として国立循環器病研究センターがやってくることのメリットをみんなが感じられるようなまちづくりにしていかななくてはならぬだろうなと思っております。そこは、今、いろいろと構想を練っていただいている段階なのかなと思っておりますが、これは、平成25年度の決算と少し離れているところでございますので、要望にさせていただきたいと思っておりますけれども、ぜひ、多くの市民の方が、国立循環器病研究センターがあそこにやってきてよかったなと感じていただけるような戦力的なまちづくりをよろしくお願ひしたいと思っております。

それから、連立の問題を少しお聞かせいただきたいと思っておりますけれども、今、市来委員と弘委員がご質問されまして、内容につきましては、よくわかったわけでございます。

そこで、意見交換会であったりとか説明会がなされて、いろんな住民の方から率直な意見が出てきたのだろうなというふうに思っております。

その中で、連立事業を本当にしないといけないのかというような意見があったのか、あるいは、今、ざっくり考えている連立の形等は、全く違った形を求めるような声なかったのか、この点について、一度、お聞かせいただきたいと思っております。

それと、最後に、千里丘西地区市街地再開発支援事業の問題なのですが、平成25年度は、ざっくりとした計画を持ちながら、地元の地権者の方に説明に

まわられた年ではなかったのかなというように思っております。

そこで最終的に判断されていくと思うのですが、本当に平成25年度、地元の地権者の方に説明をされて得られた感触として、これは、一つになってまとまってやっていけるなというところまででき上がっているのか、この点につきまして一度お聞かせいただきたいと思っております。

○木村勝彦委員長 藤井課長代理。

○藤井都市計画課長代理 それでは、鳴野委員の阪急正雀駅前地区の安心安全ということについて、安全という観点はいいのかというご質問にお答えさせていただきます。

正雀のまちづくりは、ワークショップは先ほども申しましたように、平成18年度から開催しております。

その中で、今まで経過の中では、安全マップだとか、そういった安全について取り組んだ経緯もございます。

ただ、今は、我々がどういったテーマでやりましょうというような投げかけではなくて、実際参加しておられる皆さんから、どういった問題が地域で一番重要だということを話し合われているのが現状でございます。

そういった中で、安全ももちろん大事ではありますが、今は、地域の福祉ということで、昨年度は取り組まれた経緯があります。

それを我々としては、支援していきます。

○木村勝彦委員長 嘉戸参事。

○嘉戸都市計画課参事 連立事業に関することに対してご答弁申し上げます。

まず、意見交換会並びに説明会で、連立事業をしないといけないのかという意見がなかったのかという点につきまして

ですけれども、そのような声もございません。

そのようなご意見の方は、これだけ費用がかかるのにしないといけないですかとか、事業によって交通の流れが変わって、交通安全上の問題が出てくるのにしないといけないのかというご意見だったように思いました。

鉄道が高架になることで、地域の分断や踏切がなくなって円滑な交通が図れる点に関しては、必要だと思うが、問題がある中でしなければならぬのかというご意見は確かにございました。

費用の面ですとか、交通問題につきましては、ついて回る問題といたしますか、ゼロにはできない問題でございます。

それらのことについては、市民の方のご意見をお聞きできましたので、その点には十分注意しながら進めていきますということで、必要性については、一定ご理解いただけているかなと思っております。

あと、違う形の解決法はないのかというふうな点につきましてですけれども、これにつきまして、市民の方からご意見をいただきました。

例えば、千里丘のガードのように、鉄道の下を道路がくぐる形にしてはどうかとか、鉄道の上を橋の形式で渡したらどうかというようなこともございました。

鉄道を高架ではなく、地下に潜らせたらいいのではないのかというようなご意見もございました。

まず、アンダーにするなどの意見につきましては、道路をアンダーにするということになりますと、千里丘のガードのところはそうですけれども、新たな地域の分断を生じてしまうという問題があります。線路近傍の側道があるような区間におきましては、自由にこれまで横断で

きていた道路が地下に潜りますので横断できなくなる、物理的な障壁になるという問題ですとか、あとは、側道も必要になるということで、用地買収が増え、その地域にとっては負担がかなり大きくなるというような問題点もご説明させていただきまして、そういう影響もあるのだなということで、一定、ご理解をいただけたと思っております。

また、地下化につきましても、普通の気持ちとしましては、地下に潜らせてもいいのじゃないかというのは十分ある話かと思うのですけれども、今回は、この山田川から大正川までの区間において見ましたときに、地下に潜らすということになりますと、川でありましたりとか、都市計画道路がありましたりとか、物理的に避けられないものがございまして、物理的に地下に潜っていくことができないという検討結果もございまして、そのあたりもご説明させていただきました。

○木村勝彦委員長 江草課長。

○江草都市計画課長 嶋野委員の千里丘西地区市街地再開発支援事業に関する問いにお答えさせていただきます。

平成25年度につきましては、準備組合で、街区整備計画と申しまして、建物、敷地の整備計画の案及び公共施設駅ビル等の配置の計画案の策定作業を進めました。

それと並行しまして、住民の意向調査ということで、再開発のまちづくりに参画する意向はあるかとかいうような問いのアンケートもさせていただきまして、千里丘西地区につきましては、まちの将来像といたしましては、安全安心の強化及びまちのにぎわい活性化、これを求めるというような意見で、あと再開発への参画につきましても、積極的に参加したい、まちづくりには賛成であるというよ

うなご意見を合わせまして、80%程度の賛成をいただいております。状況でございます。

これにつきましては、現況、まちづくりで個別持分の土地、建物がどのように再開発でなるかというところまで、ちょっとご理解されているのかどうかというところがございますので、今後、街区整備計画、建物利用、土地利用とかの案の精度を上げていきまして、また、その辺のご説明ができるような形をつくっていきまして、その辺のご説明を住民に説明した上で、ご理解いただけるような形で進めていくということをしなければ、今後、事業化を進めて動き出す、本格的に動き出すというのは、困難であると考えていますので、その辺を高めていきたいと思っておりますのでございます。

○木村勝彦委員長 嶋野委員。

○嶋野浩一朗委員 それでは、2回目、申し上げたいと思っておりますけれども、まず、阪急正雀駅前地区整備支援事業でございます。

テーマをこちらから投げかけるのではないのだと、集まっていた皆さんからいろいろな問題点を出していただきながら話し合っていたくということで、確かに、その姿勢は非常に大事だろうと思えます。

ただ、果たしてそれだけでいいのかなと考えると、やはり、正雀駅を使われる人からすると、何とか危ない状況を改善してくれというところは避けられないなというふうに思っております。

ということを考えていくと、やはり、通行形態といったものを、これは、もっと全体的に考えていかなければいけないわけございまして、やはり、正雀駅前といったもののとらえ方、もっと広い範囲でとらえていきながら、通行形態を考え

ていくといったことは不可欠なのかなというふうに思っております。

それを、この今のワークショップの枠組みの中でできるのかということが一つ課題になってくるのかなと思っておりますけれども、ここは長年の大きな課題であろうというふうに思っておりますので、ぜひ、駅前のとらえ方をいろいろと工夫をしていただきながら、少しでも通行形態の改善につながるような枠組みもぜひ考えていただきたいなということで要望として申し上げたいと思えます。

それと、連立の問題でございまして、いろいろな意見が市民が出されているのだなということを改めて感じさせていただきました。

確かに、アンダーにすることによるデメリットもあるのだなと、あるいは、その地下化といったものができない、その物理的な状況があるのだなということについてわかったわけなのですけれども、そして、今の連立事業を進めていくとなっても、摂津市域の全ての踏切がなくなるわけではないです。一部残るといったときに、じゃあ、そこをどうしていくのかというのは、仮にアンダーにしても、これは、解決すべき問題なのかどうかということは、少し地元の人とも向き合っていたいただきながら、意見を集約しながら、よりよい方向に向かっていていただきたいなと思っておりますので、これから、意見交換会でありますとか、説明会も市の職員の皆さんが主導で行っていかれるということでありますので、非常に困難な作業が待っているのかもしれませんが、ぜひ、将来に禍根の残らない形で進めていただきますようによろしくお願ひしたいと思えます。

それと、千里丘西地区市街地再開発支援事業の問題にもご答弁をいただきまし

た。

意向調査も合わせてされたということでございまして、以前からこの問題は、いろいろと形を変えながらも提案をしてきたという経緯があると思っております。その中で、なかなか必要な方の賛同が得られずにここまで来たという状況になっておりまして、またもやそれが繰り返すことはないのかなといったことが心配になっているわけございまして、場合によっては、どうするのかを判断する時期がもう来ているようにも思うところございまして、千里丘西地区市街地再開発支援事業の問題、これからどのようなタイムスケジュールを持ちながらことに当たっていかれるのか、最後、お聞かせいただきたいと思っております。

○木村勝彦委員長 吉田部長。

○吉田都市整備部長 昭和63年から準備組合が設立されて、もう25年以上経過があるという歴史があります。

その中で、具体的に動き出しかけたのが、昭和63年から平成2年、3年、4年ぐらいまでありました。その時期は割とそれなりに活発に準備組合が動いたと、その後、20年近くが申しわけないのですけれども、我々が事務方としてずっとおりましたので、市のほうはずっと張りついておりましたけれども、塩漬け状態にあったというのが現実でありました。

ただ、そういう流れの中で、25年、6年たちますと、現有の所有者、権利者の方々が失礼な言い方ですけれども、高齢化してきていると。その所有者の皆さんが参加されている準備組合の方々が高齢化している、そしたら、もう次の代に、こういう引きずった形のもはもう渡せないというのが、今の委員なり、役員なり、皆さんの共通した認識です。

今回、先ほど、担当からの説明ありま

したけれども、この街区整備計画の補助金と申しますのが、5年間での猶予を渡されます。国の補助として、枠としては。そのうち、どこかで3回だけ、3年間だけ補助金を使うという制度が新たに平成16年度以降できまして、国の制度にのっかって、通常の再開発ですとビルの中に入れてくださいしかないのです。

ところが、この制度は、ビルに入る人、土地で返してもらう人、だから、再開発と区画整理が一体となった整備仕様が新たに出ましたので、それをベースに、今回、役員会で協議しながら委託をして市が支援しながら協議をやっていきます。

最終的に、今、役員がおっしゃっているのは何かといたら、もうこの5年間で目途が立たなければやめると、この事業は手をおろすと、準備組合は解散するというのを、もう基本的に決断されております。

ということは、あとは市が、駅前の安全対策についてどう責任をとっていくか、これが次の課題として、我々が負うべき内容かなというふうに思っております。

だから、そのあたりは、本当に腰を据えて、今、はっきり申し上げましたけれども、3年ぐらい前から、毎月1回、役員会は開かれています。

昔は、1年に1回開くだけでした。それが、今は、3年ほど前から、月1回開いて、いろんな活動する内容とか、仕掛けていく内容とか、いろんなものを皆さんがご決断しながら、進めていただいているというのが、今の状況でありまして、我々も最終段階にきたのかなというふうに、この5年という期間の中が、それが、今後、あと3年ありますので、そのあたりもう一回、帯を締めてかかりたいなというふうに思っています。

○木村勝彦委員長 副市長。

○小野副市長 部長が全て言いましたので、私からあえて言うことはないのですが、考えておかないとあかんのは、以前この委員会でも、また、本会議でも少し申し上げましたが、千里丘ガードの角地があれば、機運が盛り上がるだろうと言ってまいりました。

もう一つは、今度は、吹田操車場跡地の路線が入ってきますので、そうしますとあの状況で放っておけるかなというのがあります。

大きな地権者の人は、市施工でやるべきだと、それは、ちょっとまってくださいと、あくまで組合施工でやらないと、市施工で乗り込むとなりますと、私どもの財政的なもの、非常に難しいということで、我々はあくまでも組合施工で都市整備部長以下頑張ってくれております。

私どもは、匂という言葉があるならば、これは、匂と逃してはならないと思っております。

ただ、中期財政見通しの中では、大きなまちづくりの中で、正雀駅前地区整備にしましても、吹田操車場跡地のまちづくりにしましても、また阪急京都線連続立体交差事業にしましても、一定の額を打ち込んであるのです

ところが、千里丘西地区市街地再開発だけ打ち込んでいません。

そこで、万一、あそこに再開発できなかったとしても、以前からいっていますように、どうしても狭隘なあの状況に吹田市域からも人が流れてくるあの状況を放っておけない、そうしますと、どうしても一定は整理をしなければならない。それも相当の財源がかかるということも考えておりますので、私どもは、平成17年のあの苦しみを二度と味わいたくありませんが、市債発行と基金の関係を見ながら、また、議会の応援も願いながら、

これは、匂を逃してはならないということの気持ちを持って、組合施工の中で市は精いっぱい取り組んでいくというのが私どもの今の率直な考え方でございます。

今、一生懸命頑張っておりますので、吉田部長が言ったとおり、日々頑張っておりますので、今少しお時間をいただきたいと思っております。

○木村勝彦委員長 鳴野委員。

○鳴野浩一郎委員 最後にさせていただきたいと思っておりますけれども、副市長が匂というお言葉を使われまして、1回匂が来たと思うのです。それが、うまいこと使うことができずに、それから、ずっと匂が来なかったと思っています。

それから、私も聞いているだけの話でありますけれども、吉田部長もおっしゃっておられましたけれども、ここ最近になって、どうにか匂をつかみかけているという状況かなと客観的には見ておりまして、さらにそれで、この5年で準備組合としても無理であれば、もうあきらめるのだというようなお話があったようでございますので、ぜひ、その中で最大限動いていただきまして、しっかりと集約をしていただけるようによろしくお願いをしたいと思っておりますし、何よりも安全な通行形態です。あそこも渋滞がネックになっておりましたし、さらに山手地域でいろんな開発が進んで、吹田市域から人が来る、乗合バスなんかもふえている状況でありますので、そこら辺のことは、また、頭の隅に置きながら当たっていただきたいということをお願い申し上げまして、質問を終わらせていただきます。

○木村勝彦委員長 ほかにありませんか。
藤浦委員。

○藤浦雅彦委員 先ほど来、さまざまに質問、答弁されております。

それを受けまして、若干、質問させて

いただきたいと思います。

一つは、吹田操車場跡地の関係でございますけれども、平成25年度の事業等について、先ほど来答弁がありました。

その中で、千里丘公園の関係になりますけれども、いよいよ平成28年の春にオープンということで、オープンしますと、当然、これは管理が公園みどり課のほうに移っていくということになると思うのです。

先に行いました南千里丘の境川せせらぎ緑道のときにも質問しているのですけれども、これもワークショップでもって計画をやって、それで工事をやって、完成させたというようなことをごさいます、管理形態をガランド水路のように地域でやっていただけるような、そういう体制をつくっていくことがいいのではないかとこの提案をいたしました。これは、平成22年6月に駅前等再開発特別委員会で質問させていただいたのですけれども、そのときに、当時の部長から、市の管理費の軽減を図る目的でも、やはり市民参加というのは大事だと思っていると。そういった面から、今後、この南千里丘、まだ、当時、住民は入っていませんでしたので、住民が来られたらぜひそういうことを検討していきたいということでございましたが、なかなかそれが実現できていないような、管理の形態を見ますと、なかなかそうではないのかなというふうに思うのですけれども、考え方としては、そういうものはしっかりとお持ちだったと思うのです。

この千里丘公園もワークショップをやりました。ワークショップをやって、平成20年9月から平成21年2月にかけて5回やりました。私も5回とも出席をさせていただいて、ほとんど地元の方が多かったです。いろんな意見をまとめて、

公園整備に係るゾーニングやイメージプランを作成をさせていただきました。

平成23年5月には、これでできましたということ、計画の説明会もしていただきましたけれども、そういう意味では、さっき言いましたこの管理体制、協働という考え方というのは、ずっと持つておられたと思うのです。そういうのがあって、その後でできました緑の基本計画の中にも、この最終的な重点政策としては、市民にとって最も身近な公園について愛着を持って利用し、将来にわたり育めるよう再生に向けたワークショップを開催しますということで、協働という考え方を取り入れていらっしゃると思うのですけれども、この間、平成25年度で結構ですけれども、そう管理についても何らかのアクションなり、考え方を示されたことがあったのかどうかについて、1点をお聞かせを願いたいと思います。

それから、同じく吹田操車場跡地の件ですが、南北分断問題、毎年、この吹田操車場跡地の工事については、工事説明会が近隣で開かれますけれども、平成25年度も行われまして、ことしもここには参加させていただきましたけれども、必ずこの南北の分断問題に声が市民から出ます。

ご存じのように、あそこには千里丘ガードを除いたら、あと坪井のガードと竹之鼻ガードの二つのガードがありますが、どちらも狭くて、特に歩道部分で自転車が行き違いできないと、車いすなんかも通ると自転車とか人が行き違いができないという声が出ています。

今までいろいろやる中で、地元の声も随分入れていただいて、例えば、竹之鼻ガードですと、工事する部分については、天井を取っ払うと、それから階段をつけて、その部分については拡幅するなど、

いろいろやっていただいておりますし、また、色を明るくペンキで塗ったり、改修もやっていただいて、いろいろ地元の意見も入れていただいていることはよく承知しております。

また、平成25年度の説明会のときには、坪井味舌線がそのまま地下道を1本通すという計画をしていました。ところが、いろんな諸条件でこれは断念をしました。そのかわりに千里丘駅の自由通路を開放してエレベーターをつけるというふうなこういう丁寧な説明もしていただきました。そういうのも地元の方はわかっていらっしゃるのですけれども、それでもまだ声が出ています。やや前向きな答弁もされていましたが、この南北分断問題について、どういう認識をされておられるのか、一度、聞いておきたいと思えます。

それから、先ほど、嶋野委員からもありましたけれども、国立循環器病研究センターが来るということについて、いろいろ変わってまいります。医療クラスター形成会議とか、健康医療のまちづくり会議というものをつくって、これから新しいまちづくり、また、ソフトの面でも健康づくりのまちをつくっていくということでございます。

9月の委員会では、いろいろ説明をいただきまして、その後、どうなったのかと、本当は、本市がイニシアチブをとっていただきたいなと思えます。

本市もこの健康づくりについては、随分いろんな施策を展開をしておりますし、まちごとフィットネス！ヘルシータウンせつ事業は3年目は千里丘でやるというふうなことになっておりますし、非常にマッチしているというか、今行われていることが、非常にマッチングしてきていると思うのですが、そういう意

味では、ぜひ、本市がイニシアチブをとりまして、今までやっている施策をうまく絡めて、施策の計画をつくっていただきたいなということを、これは要望しておきますのでお願いします。

それから、千里丘西地区市街地再開発支援事業の問題です。これも要望にさせていただきますけれども、先ほど、副市長からも、決意を込めた答弁をいただきました。やっぱり、本当に多くの方から声をいただきます。これでいいのかという声をいただいておりますので、これは、ぜひ、再開発で何とか通していただきたい。道路拡幅もいいのですけれども、やっぱり再開発で何とか進めていただけますように、これも要望しておきたいと思えます。

それから、最後に連立の問題ですけれども、これも要望にさせていただきますが、以前から連立していく中で、柱脚が何となく殺風景な雰囲気になるのではなくて、やっぱり特徴のある連立にしてほしいということを要望しておりましたけれども、先だって全国都市問題会議で高知市にいつてきましたけれども、高知市も最近、JRの連立をしているのですが、随分良いデザインをしまして、柱も丸っこい柱になってまして、側面に飾りがしてありまして、全国で言うと、随分参考になる事例もあると思えますので、ぜひ、そういうのをしっかりと勉強していただいて、今度、摂津市の連立は、ぜひ、そういう特徴のある、デザイン性のあるような連立を目指していただきたいなと思うのです。

多分、もう設計をされているので、放っておいたら、多分、一番安上がりだというか、機能だけのそういう連立になるかもわかりませんので、その辺はぜひ連携をとっていただいて、高くなるかもわか

りませんけれども、全国にそういう事例がありますから、そういうものもぜひ提案をしていただいで勉強していただいで、取り組んでいただきたいということを要望しておきたいと思ひます。

○木村勝彦委員長 土井次長。

○土井都市整備部次長 まず、それでは、千里丘公園の管理についてのご質問ですけれども、千里丘公園につきましては、ワークショップをさせていただきまして、いろいろどういふ公園整備がいかというようなお話をさせていただきました。

我々としては、その中で、管理の話までに及んでいくと一番いいなと思ひながらワークショップをさせていただいたのですけれども、なかなかそこまでは話がいかなかったという事実もあります。

また、あの当時、まだ吹田操車場跡地がどんな形になるかということが、まだ、皆さんがわかっていない状況でもあったのかなというふうには思っています。

そんな形で、我々としては、ワークショップで、地元から管理についてのお話があれば進めてまいりたいと思っていたのですけれども、なかなかそこまでいかなかった。

また、今回、つくる公園が1ヘクタールという大規模な公園でございます。

今、公園のほうで、地元管理をしていただいでいる公園というのは、ちびっこ広場的な、本当に地元に着した小さな公園というのがありまして、記憶の中では、都市公園を地元で管理していただいでいるのではないのかなと思ひておひます。

経費削減も含めまして、地元と協働して管理をしていくという、これは非常に大事なことだと思ひておひますけれども、まだ、どういふ公園でどうなっていくのかという実態は見えない状況であります。

また、市のほうから地元で管理をして

くれませんかというのは、これは、また、なかなか押しつけになってしまつて難しい面もあると思ひておひます。

今後、公園を供用しまして、地元とどういふふうにしていったら、どういふ管理もしていただけるのかということ、今後、検討もしながら考えてまいりたいと思ひておひます。

次に、南北分断ですけれども、吹田操車場跡地のまちづくり事業を始めるときに、この問題は承知しておひまして、何とかならないかという形で、種々、いろいろ検討もさせてもらひ、また、この委員会でも状況報告もさせてもらひました。

やはり、物理的に簡単に住民の方はちょっと広げてくれたらとか、もう1メートル広げてもらえないかというようなお話はあるのですけれども、実際、工事をしようとする、そのよう簡単なものではありません。

千里丘正雀一津屋線側が非常にガードに直近しておひまして、あそこを下げると、全体の取りつけができない等々、我々も検討したのですけれども、構造的に改良するのは、なかなか難しいという判断をさせていただいた経緯がございます。

地元からは、常に南北分断何とかならないかという意見があるのは、承知しているのですけれども、その中で、坪井のガード、竹之鼻ガード、いずれにしても新たな階段を整備したり、いろんなできる限りの改善はさせていただいたと思ひておひます。

今後とも、地元から要望があるかもわかりませんが、今の吹田操車場のまちづくりの事業の中で、これ以上の改善というのは、事業としては、なかなか難しいと思ひている状況です。

○木村勝彦委員長 藤浦委員。

○藤浦雅彦委員 ありがとうございます

た。

まず、最初の公園の管理運営の話でございませけれども、確かにおっしゃるとおりに、地元での管理というのは、難しいというのがあります、市場池公園では年に1回、クリーンキャンペーンということで掃除をやったり、既にやっているのです。だから、なかなかもう一つというのは、本当は難しいと思います。

そのかわりに、あの辺には大きな企業が何個かありますし、それで健康づくりという観点と絡めて、そういう公園の管理も楽しく管理ができる、健康づくりの中で管理ができるというふうなイメージで進められないかと、新しい観点で、医療クラスターもやってくるということになりますから、そんなのと合わせて、健康づくりという観点からの楽しい管理みたいなことで、新しい発想でできないかということをお一回検討していただきたいと思っています。

大分昔、王子動物園にいったときに、王子動物園のえさを企業が負担をしているということで、プレートをはられて、このサルのはえさはどここの企業がサポートしていますというふうなことで、ずっとはっているのです。

そういうのも一つアイデアだと思うのです。だから、そういうアイデアでもって、新しいまちですから、公園がオープンするときには、そういうのも合わせて新しい方式だなということもぜひできたらいいなと私思いますので、勉強して検討していただくとありがたいと思います。

それと、もう一つ、南北の分断問題ですけれども、確かに、今回の事業で解決するのは、本当に難しいだろうと思いますし、できることはやっていただいていることもよくわかります。

まだまだいろいろ細かいことは要望、市民の方、例えば、坪井ガードのところの歩道部分、ガタガタでおばあちゃんらがお医者さん通いするのに押し車を押すときに、下がガタガタで行けないとかいろんな声が出ています。できることはしていただく中で、将来的には、この南北問題というのは、まだまだ根強いものがあるのだということの認識を持っていただいて、もし、何かの機会、例えば、その連絡橋みたいなものでも、人だけでも何とか渡せるようなことは、機運が高まってくれば、そういうこともぜひ考えていただきたい。防災公園に直接入れるような連絡橋がかけられるようなそういう機運があるとか、また、条件が変わってきたときに、そういう話があったのだということ、しっかりと継承していただいて、認識を持っていただきたいということをお願いをしたいと思います。

○木村勝彦委員長 大澤委員。

○大澤千恵子委員 どんどん質問が出ましたので、私のほうは、2点だけお聞かせいただきたいと思っています。

まず、1点目の千里丘公園整備負担金でございませ、平成25年度の決算の残で、1億2,939万6,969円残っております。

埋蔵文化財との関係で費用負担、今回、どれくらいかかっているのかということをお聞かせいただきたいということです。

それと、もう一点なのですが、ヒアリングの支援業務委託金、49万3,500円かかっております。

先ほどからご答弁いただきまして、ファシリテーターに入っていて、市の職員も中に入って、いろんなスキルを勉強したということでございませ。

先ほど、藤浦委員のほうもおっしゃっていましたが、千里丘公園のとき

にワークショップを5回やっています。そのとき、私も2回ワークショップの中に入れていただきました。

当初、土井次長もいらっしゃったと思うのですが、その1回目の方のファシリテーターが、私、入れていただいたのですが、初心者の方でした。ファシリテーターは初めてですという方が入っていらっしゃって、ファシリテーターの説明も何もなく、市民の方が、これは何のためにやっているのですかと。いきなりカードをいっぱい配られて、その説明もなく始まったというような状況がありました。

49万3,500円かかっている状況で、これは49万3,500円で、職員の方も入っていらっしゃるから、もちろん費用もかかっています。そこまでやって、今、おっしゃった内容のことが出てきました。これは、本当に費用対効果があるのかなということが非常に疑問に思っています。

この内容自体を、もう一度精査していただいて、市民の要望の内容、一回、私たちに出示していただけたらなということを思うのですが、要望の内容、どれくらいのものが出てきたのか。

今後、市民の方々の意見交換会には、職員の方だけでやるということをおっしゃっていらっしゃいますが、費用はその職員の方の分だけなのかなというふうに思いますけれども、今回、入れていただいたことがどれだけの効果があるのかということは、確認したいと思いますし、この業者が当時と同じ会社なのかどうか確認したいと思います。

○木村勝彦委員長 秋庭参事。

○秋庭都市計画課参事 千里丘公園の文化財の調査費について答弁いたします。

まず、平成25年度、千里丘公園のほ

うにつきましては、文化財調査はやってございまして、吹田操車場跡地の分について、文化財調査を行っております。

そちらのほうのお金ですけれども、これは、全体の調査費は、5,000万円でございます、これの摂津市の費用分が800万円でございます。

この800万円を平成24年度繰り越してございますので、平成25年度に執行しているということでございます。

○木村勝彦委員長 嘉戸参事。

○嘉戸都市計画課参事 そうしましたら、連立のヒアリング支援業務についてのお問いにお答えいたします。

まず、コンサルタント業者なんですけれども、委員のおっしゃられていました過去の千里丘公園のときの業者とはまた別のコンサルタント業者でございます。

コンサルタントが現地のことをよく知っていなければならないということで、私どもも開催の前、何度か委託業者とも打ち合わせをいたしました。

まず、現地をよく確認するようにと指示しますとともに、9月に地元説明会も開催されておりましたので、そこでどういった議論があったのかということも含めて、資料も渡しました。そうすることで、現地もわかって、意見もわかった上で、当日、望むようにということで進行させていただきました。

業務の中身ですけれども、ファシリテーター的な役割と合わせて、資料作成もしていただいております。

当日、さまざまな意見が出ておりますので、それをうまくまとめて、最後お知らせできるようなペーパーを作成しております。

そのペーパーにつきましては、翌平成26年度の意見交換会におきまして、過年度にこういう議論がありましたという

紹介のために配布させていただいております。

前回、9月の本委員会におきまして、地元説明会と意見交換会の結果をご報告させていただいたかと思いますが、その資料の中で、参考資料ということで、A3のペーパーがあったかと思いますが。あちらが、平成25年度の委託成果品の中の一つでございまして、当時、2回行いました意見交換会で出ました意見を集約して、一般の方が見ていただいているような意見があったのかというのがわかるようにまとめたものでございます。

○木村勝彦委員長 大澤委員。

○大澤千恵子委員 資料のほうは、前回その意見交換会の内容だけだということを理解しました。

その業者選定のときに、当時、ワークショップのときに、やはり、地元のこともよくわからないような業者でございました。

といいますのは、あそこの千里丘公園の横に流れている山田川の水が流れていないというような意見がこの業者からありまして、市民の方が水が流れていないわけないやんとすごく怒っていらっしゃったことがありました。

ですから、やっぱりその土地のこともよく理解をして、摂津市の現状もよく理解をした業者を選定をしてワークショップをしていただくと、そして、そのワークショップが、やはり、コンサルタント会社が入っているということですのでしっかりと資料としてあがってくるような業者を選定していただきたい。

そして、皆さんの意見をしっかりと集約をして、今後のまちづくりにつなげていただきたいなというふうに要望いたします。

○木村勝彦委員長 ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○木村勝彦委員長 以上で質疑を終わります。

暫時休憩します。

(午前11時39分 休憩)

(午前11時42分 再開)

○木村勝彦委員長 再開します。

討論に入ります。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○木村勝彦委員長 討論なしと認め、採決します。

認定第1号所管分について認定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○木村勝彦委員長 賛成多数。

よって本件は認定すべきものと決定しました。

これで本委員会を閉会します。

(午前11時43分 閉会)

委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

駅前等再開発特別委員長

木村勝彦

駅前等再開発特別委員

藤浦雅彦